

地域循環共生圏セミナー2025

第1回 「観光×環境」

地域全体で進める地域資源を活かした観光まちづくり
– 火力発電所跡地からの挑戦／CPQ&ツアー –



2025年12月2日
サーキュラーパーク九州株式会社

自己紹介

- ◆2003年4月 九州電力株式会社に入社
- ◆2025年7月 サーキュラーパーク九州株式会社へ出向
- ◆薩摩川内市の旧火力発電所跡地にて資源循環型社会の実現を目指す
「サーキュラーパーク九州」の企画業務を担う。
- ◆廃棄物の再資源化や、資源循環に関する課題解決の支援などを軸と
した資源循環事業に取組む一方、自治体や地域事業者と連携しながら、
産業・観光・教育を融合したモデルツア「CPQ&」を構築中。
- ◆地域とともに持続可能な社会づくりを目指し、対話を行いながら、
社会実装に向け挑戦している。

サーキュラーパーク九州(株)の概要

会社概要

○ これまで九州のエネルギーを支えてきた川内発電所の跡地を資源循環の拠点と位置づけ、循環経済と脱炭素化の推進による持続可能な社会の構築を目指すものであり、2030年度の同構想の実現に向け、2023年7月に会社設立、2024年4月に事業を開始しました

[旧川内発電所の概要]

| | |
|-------|--------------------------------|
| 発電所名 | 旧川内発電所 |
| 所 在 地 | 鹿児島県薩摩川内市港町字唐山6110番地1 |
| 敷地面積 | 約32万m ² |
| 出 力 | 50万kW×2機（総出力：100万kW） |
| 燃 料 | 重油・原油 |
| 沿 革 | 1974年 1号機運転開始 1985年 2号機運転開始 |
| 廢 止 | 2022年4月 廃止 |



会社概要

会社名 サーキュラーパーク九州株式会社
Circular Park Kyushu Co.,Ltd.

代表取締役 春木 優、中台 澄之

設立日 2023年7月26日

資本金 1億円

事業内容 一般廃棄物・産業廃棄物の収集、運搬・処理及びこれらに関するコンサルティングほか

本社 鹿児島県薩摩川内市サーキュラーパーク1丁目1番

川内工場 鹿児島県薩摩川内市サーキュラーパーク2丁目1番

川内事務所 鹿児島県薩摩川内市西向田町6-32

福岡事務所 福岡県福岡市中央区渡辺通2-1-82

東京事務所 東京都品川区南品川2-4-5

【会社ロゴ】



Circular Park 九州



Circular Park 九州

From LEGACY to the FUTURE

これまでの社会を見つめなおし、これからの未来を考えながら実践する場へ

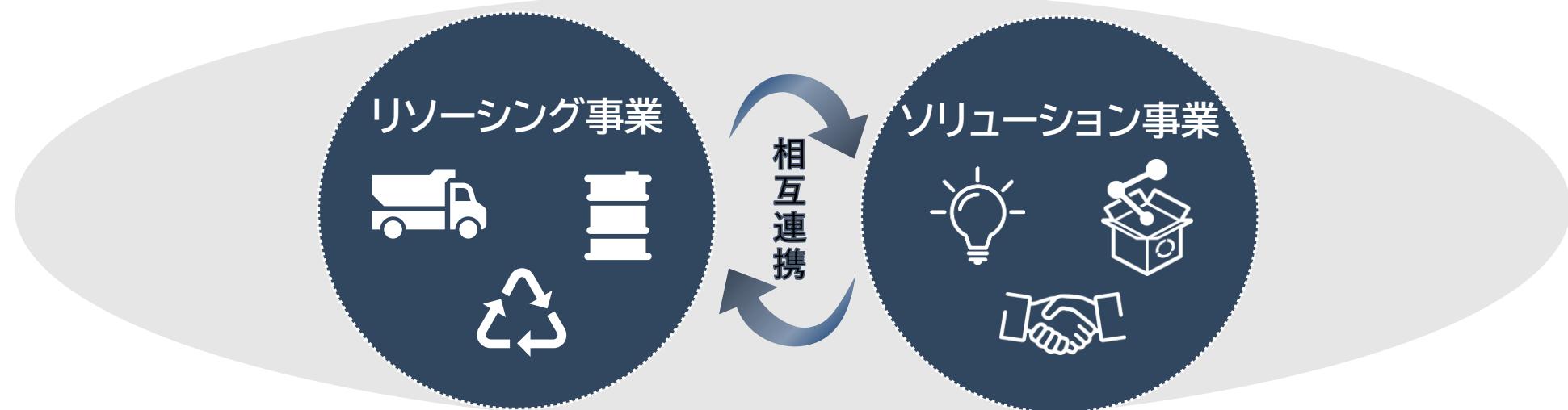
九州のエネルギーを支えてきた川内発電所を、サーキュラーエコノミーを実現する新たな挑戦の場所と捉え直します。そして、資源循環を中心としたサーキュラーエコノミーと脱炭素化の推進による持続可能な社会の構築を目指します。



Circular Park 九州

主な事業

- ・リソーシング事業
- ・ソリューション事業



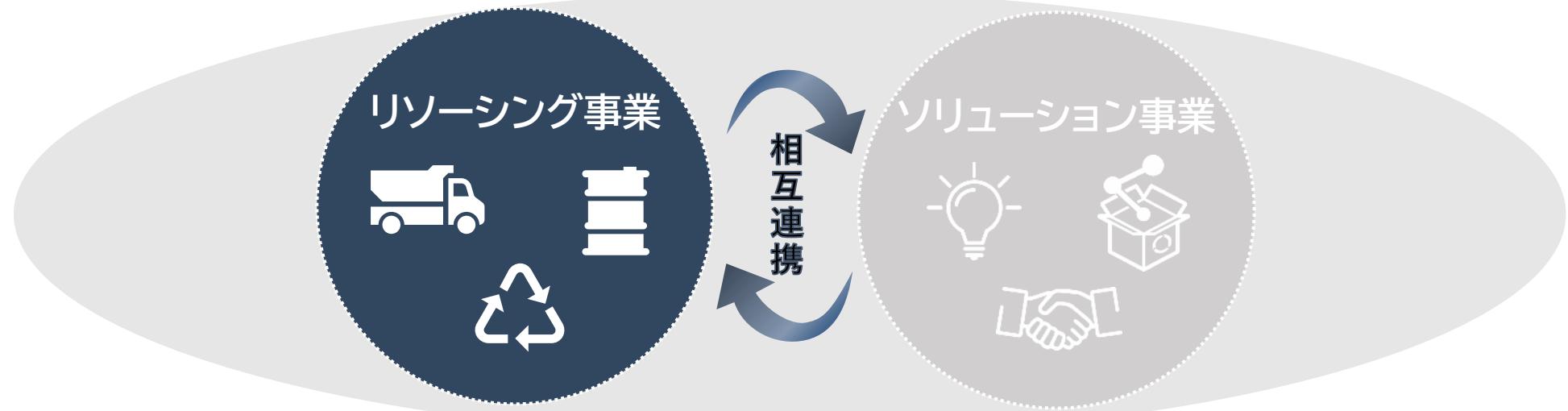
リソーシング事業

- 企業や地域の廃棄物を丁寧な分別・選別等により高いレベルで再資源化する事業
- 企業の生産・流通過程における廃棄物や在庫処分品等、幅広い廃棄物を再資源化
- 資源循環のコンサルティングを通し、リサイクルを前提とした製品設計・製造の促進に貢献

ソリューション事業

- 資源循環に関する企業・社会の中長期的な取組みに対し、産官学のネットワークを活かした研究開発、実証実験やコンサルティングなどをワンストップで対応できる体制を構築し、取組みに対する協業・支援を実施

Circular Park 九州



リソーシング事業

- 企業や地域の廃棄物を丁寧な分別・選別等により高いレベルで再資源化する事業
- 企業の生産・流通過程における廃棄物や在庫処分品等、幅広い廃棄物を再資源化
- 資源循環のコンサルティングを通し、リサイクルを前提とした製品設計・製造の促進に貢献

ソリューション事業

- 資源循環に関する企業・社会の中長期的な取組みに対し、産官学のネットワークを活かした研究開発、実証実験やコンサルティングなどをワンストップで対応できる体制を構築し、取組みに対する協業・支援を実施



Circular Park 九州

リソーシング事業（概要）



Exsample



A E D
(自動体外式除細動器)

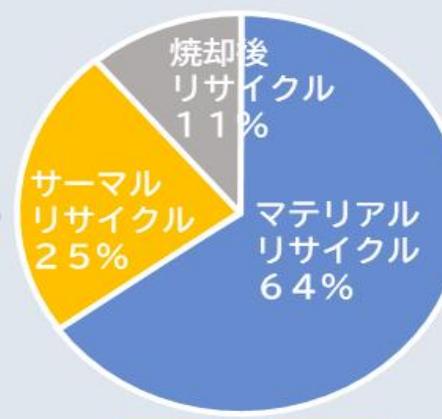


C P Qでは丁寧に細かく選別し、再資源化を実施



50種類以上の部品に
細かく選別されたAED

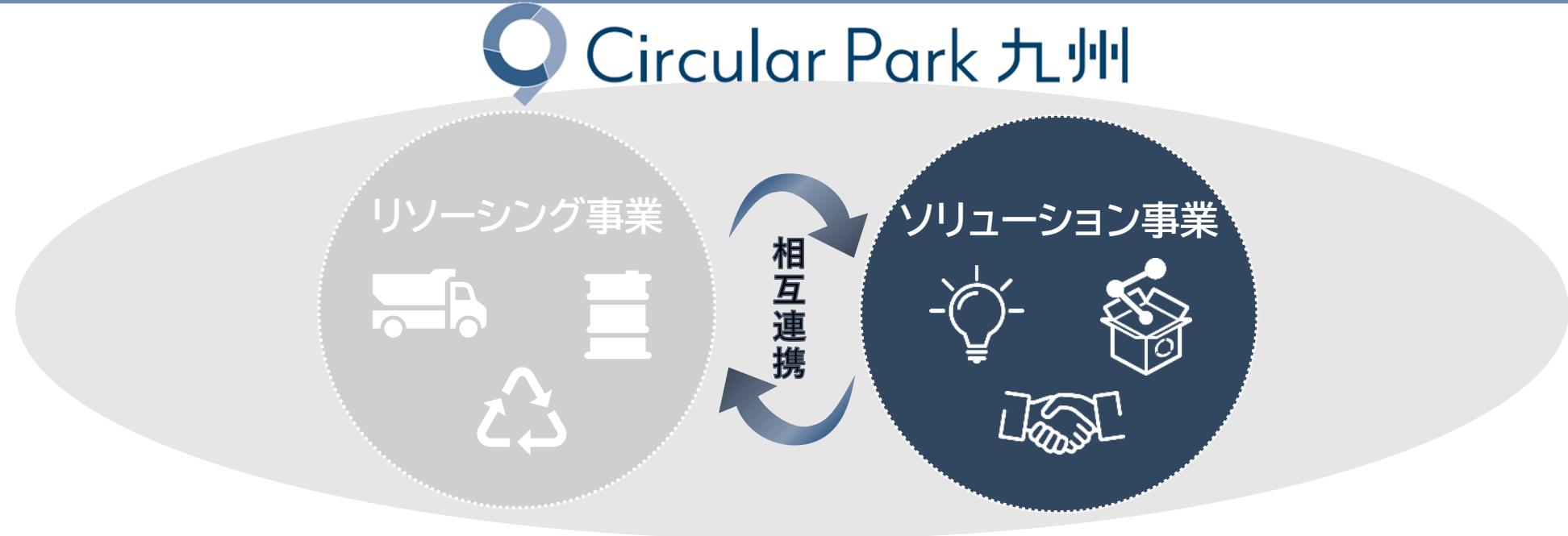
再資源化



リサイクル率
100%

リソーシング事業（概要）





リソーシング事業

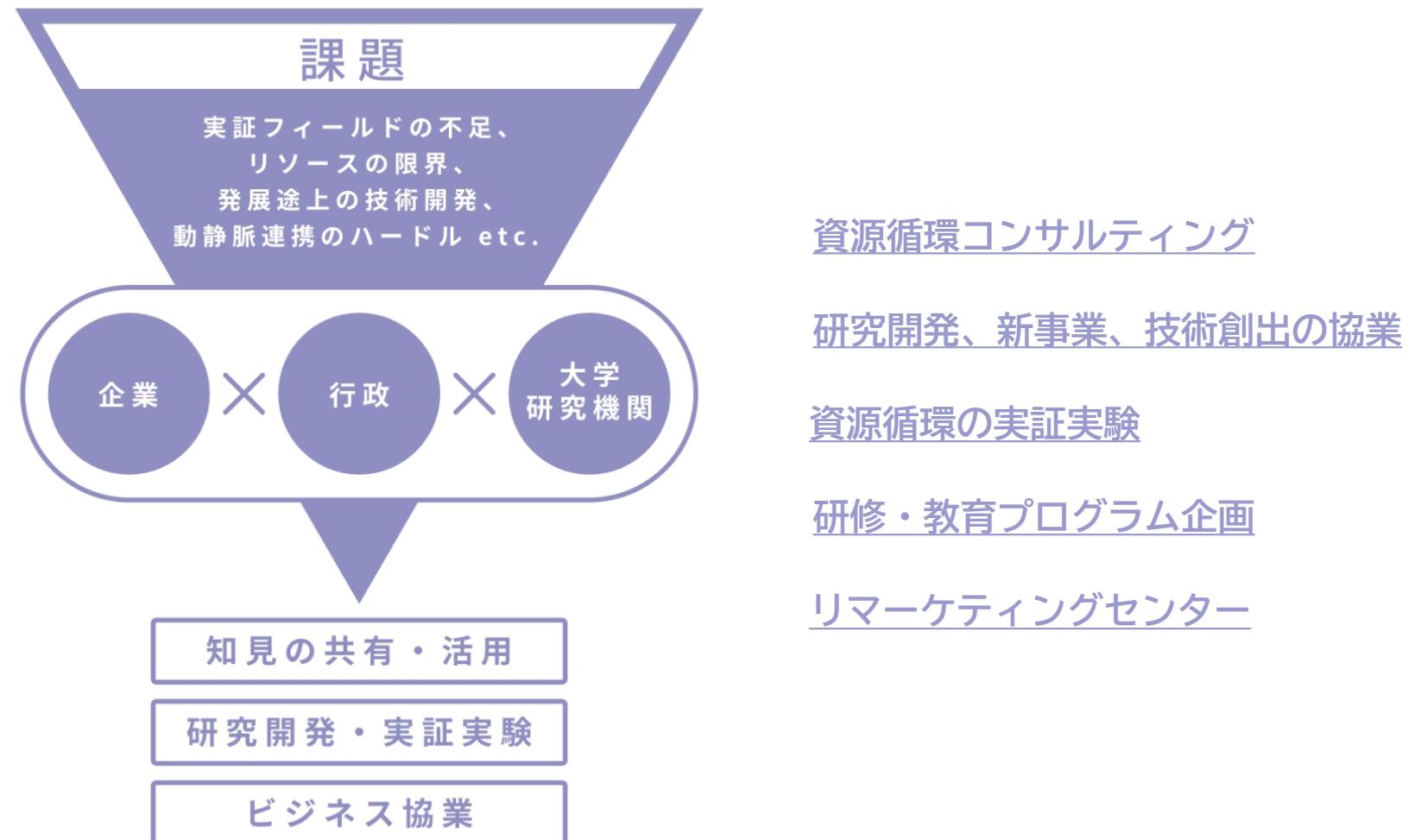
- 企業や地域の廃棄物を丁寧な分別・選別等により高いレベルで再資源化する事業
- 企業の生産・流通過程における廃棄物や在庫処分品等、幅広い廃棄物を再資源化
- 資源循環のコンサルティングを通し、リサイクルを前提とした製品設計・製造の促進に貢献

ソリューション事業

- 資源循環に関する企業・社会の中長期的な取組みに対し、産官学のネットワークを活かした研究開発、実証実験やコンサルティングなどをワンストップで対応できる体制を構築し、取組みに対する協業・支援を実施

ソリューション事業（概要）

連携している企業・大学や研究機関・行政と共に、
資源循環に関する様々な課題を最適な体制と手法によりワンストップで解決します。



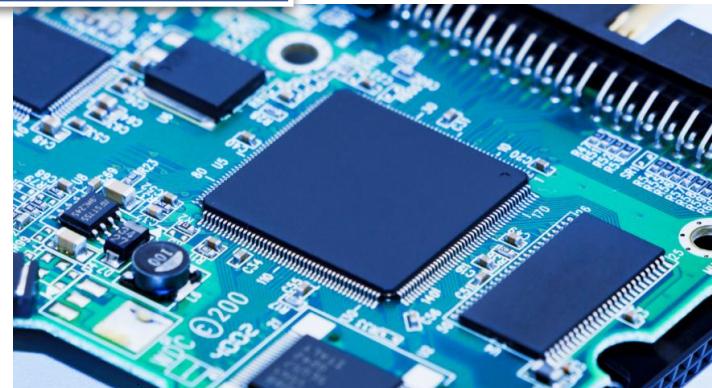
ソリューション事業（概要）

バッテリー



日本はほとんどを海外からの輸入に依存しているため、経済安全保障の観点からも国内で再利用する循環を作ることが課題

半導体



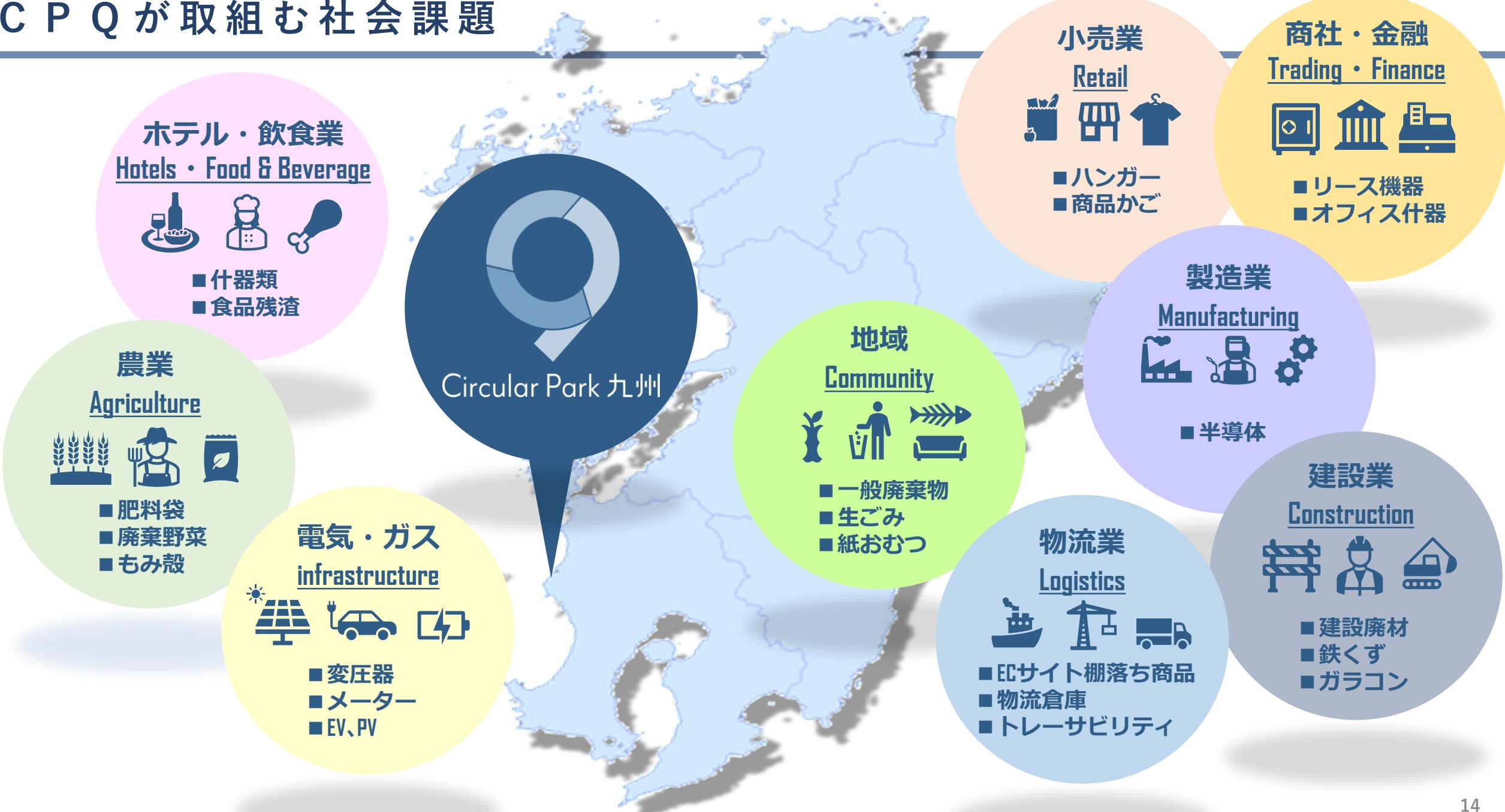
太陽光パネル



無機材料から構成される半導体デバイスは、鉛など有害な物質が含まれるため、適切な廃棄処理が課題

2030年代後半からの廃棄パネル大量発生に向けて、リサイクル技術の確立や出口の市場形成等が課題

CPQが取組む社会課題



教育関係・視察受入れ



Circular Park 九州

教育関係・視察受入れ

- 薩摩川内市の委託事業として、資源循環をテーマとした体験型の研修プログラムを実施。
- 資源循環工場見学に加え、「ワークショップ」等の体験型プログラムも実施。
- 企業研修の実施についても検討中。
- 一般的の工場視察も受け入れており、連携企業や市内事業者だけでなく、県外からも幅広く視察者を受けている状況。
※火力発電所の跡地活用という観点での視察も受け入れている



資源循環工場の見学の様子①



資源循環工場の見学の様子②



資源循環に関する学習の様子

発電所跡地の利活用

～エリア全体のマネジメント～

将来的な整備イメージ



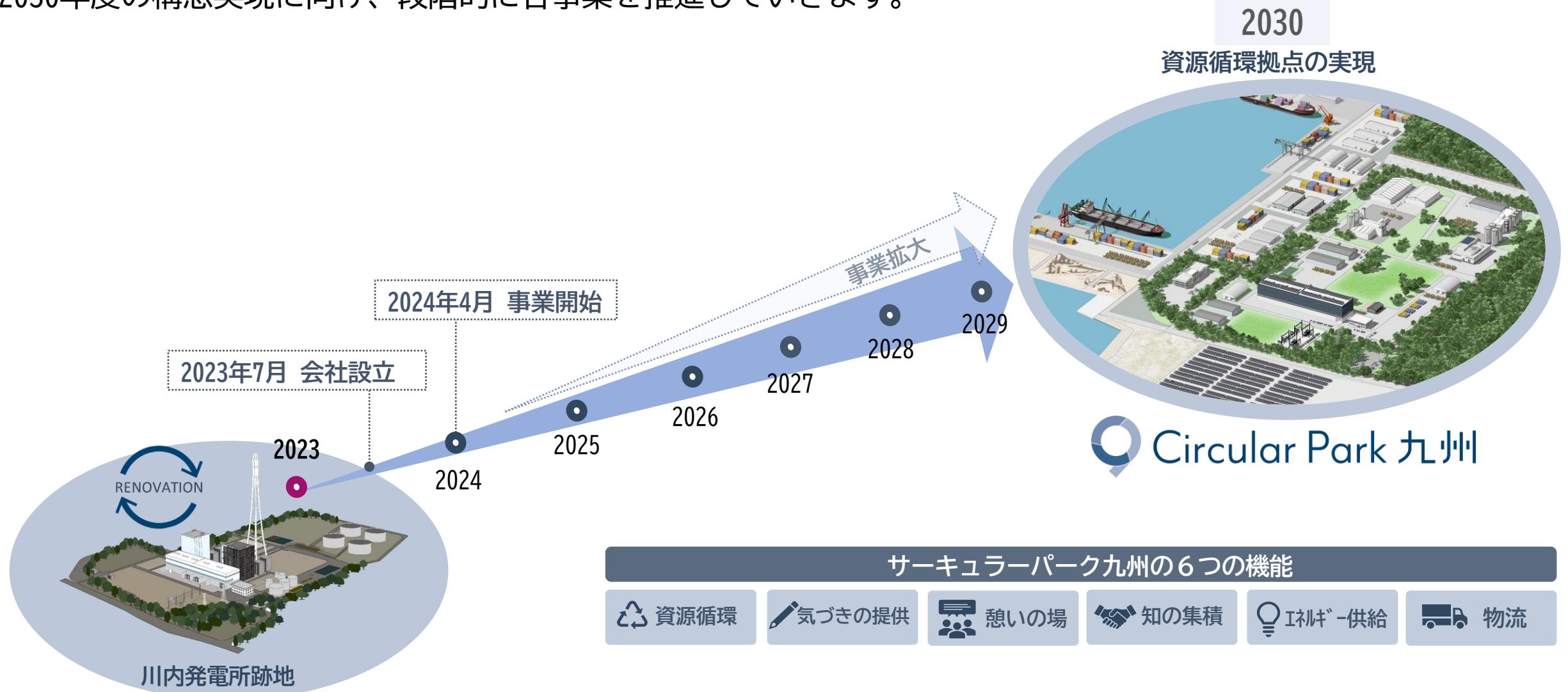
※ 上記はイメージであり、決まったものではありません

将来構想（2030年）



ロードマップ

サーキュラーパーク九州株式会社では、九州電力株式会社、株式会社ナカダイホールディングスと協働し、2030年度の構想実現に向け、段階的に各事業を推進していきます。



アフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望 「重要港湾川内港・川内港背後地」



地域循環共生圏に関する取組み

～CPQ&ツアー～



地域循環共生圏創造事業費



【令和6年度予算額 350百万円（新規）】

地域循環共生圏の創造を強力に推進するため、地域プラットフォームを構築し、地域トランジションを実現します。

1. 事業目的

- ① トランジションモデル形成
- ② 中間支援機能の担い手育成
- ③ 地域間ネットワーク強化・情報発信

2. 事業内容

「第五次環境基本計画」（平成30年4月閣議決定）では、地域の活力を最大限に發揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱した。これを受け、地域における炭素中立、循環経済、自然再興型社会への移行を促し、持続可能な自立・分散型社会を構築するため、以下の取組を実施する。

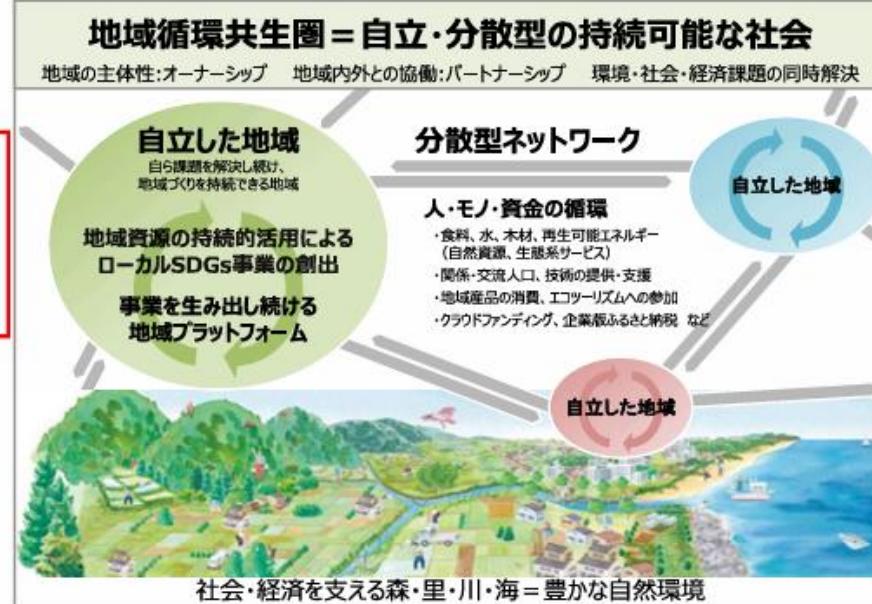
- ① 炭素中立、循環経済、自然再興型社会への移行を目指す際に大きな影響を受けるステークホルダーや地域を取り残さずに、協働的なアプローチを含めた地域循環共生圏の考え方に基づき自立した地域づくりに取り組む者を支援する。（例えば、火力発電所等の地域の中核となる産業の撤退に際し、関係する地域の企業等も含めた地域内外のステークホルダーとともに、地域に環境を軸にした新たな事業や産業を創出しながら、地域トランジションを実現するモデルを創出する。）
- ② 中間支援機能※を有する既存の団体が地域への伴走支援を実践的に行いつつ、その過程で得られたノウハウを横展開することで、中間支援機能を担える人材・組織の育成を行い、地域循環共生圏の創造を推進する。
- ③ ローカルSDGs事業の担い手同士の有機的なつながりを構築する場の提供や、優れた地域プラットフォームの事例の情報発信の場を設ける。

※中間支援機能…ヒト・モノ・カネ・情報をはじめとする資源の連結、関係者の納得度合いや先を見越したステップを確認して進行管理を支えるプロセス支援、変革に向けて刺激を与える心や意思を呼び起こす変革促進、本質的な解決策の発見を促す問題解決提示など

3. 事業スキーム

- 事業形態 共同実施／請負事業
- 共同実施先・請負先 地方公共団体／民間事業者・団体
- 実施期間 令和6年度～令和10年度（予定）

4. 事業イメージ



地域循環共生圏（2018年、第5次環境基本計画）は、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカルSDGs事業）を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくるとともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方です。その際、私たちの暮らしや、森里川海のつながりからもたらされる自然資源を含めて地上資源を主体として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していくことが前提となる。地域の主体性を基本として、パートナーシップのもとで、地域が抱える環境・社会・経済課題を統合的に解決していくことから、ローカルSDGsとも言います。

■ サーキュラー都市・薩摩川内市の実現に向けた取組み

- ・環境配慮、資源の効率的・循環的利用
- ・市民・事業者と連携した持続可能なまちづくり

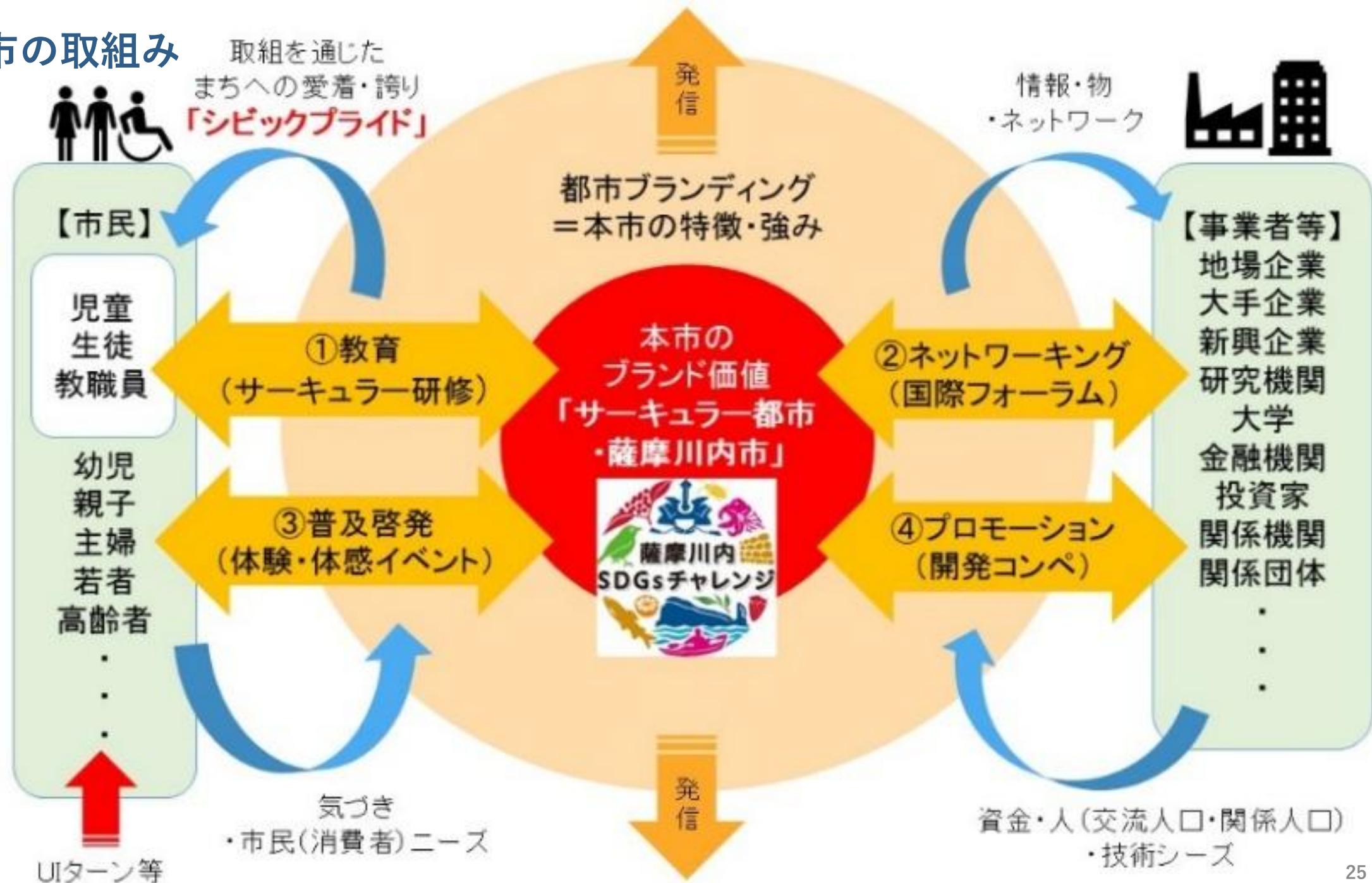
■ CPQを観光振興の好機と捉える

- ・既に多数の観察受入実績
- ・交流人口・関係人口の創出・拡大
- ・地域経済効果への期待

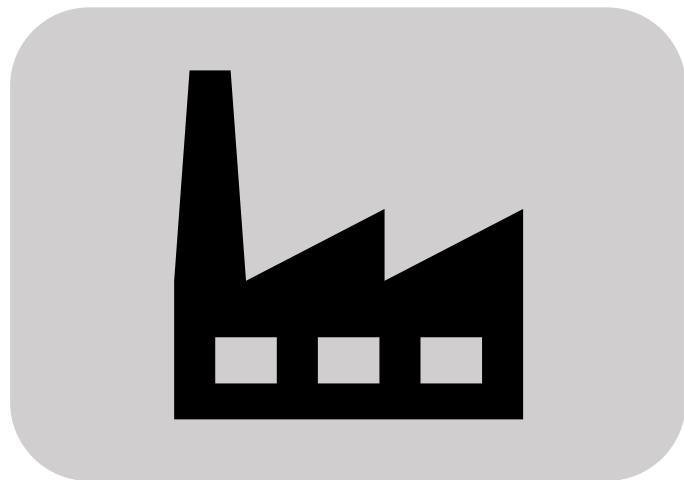
■ CPQを新たな観光コンテンツとし既存観光資源とパッケージ化

- ・滞在時間延長と観光消費額増加
- ・市民理解の獲得、行動変容の契機

薩摩川内市の取組み



サーキュラーパーク九州の視点：トランジション（火力発電所⇒循環経済の拠点）



火力発電所



資源循環の拠点

- ・ 火力発電所廃止 ⇒ 資源循環の拠点化を目指す【地域社会・経済構造が変化】
- ・ 港湾・道路整備など、エリア全体として大きな転換期【成長のチャンス】
- ・ 地域共創、地域活性化に資する取組みを実施したい【自社だけの取組みでは限界あり】
- ・ 地域内外から視察を受入れ【ただし、現状、周辺の観光資源との連携なし】

CPQに視察に来ていただける方々と周辺の観光スポットで回遊性を持たせたい！



Circular Park 九州

環境省の事業を活用した自立・分散型の持続可能な社会（地域循環共生圏）の創造に向けた取り組みを開始します



更新日：2025年01月16日

環境省の事業を活用し、いであ株式会社（東京都：環境省の請負者）、特定非営利活動法人ETIC.（同左）及び本市に立地するサーキュラーパーク九州株式会社と連携し、**自立・分散型の持続可能な社会（地域循環共生圏）の創造に向けた取り組み**を開始します。

1. 事業名

令和6年度地域循環共生圏創造事業費

2. 事業期間

令和7年1月15日～令和7年3月31日

3. 実施内容

サーキュラーパーク九州を新たな観光コンテンツと捉え、既存の観光資源等とパッケージ化したツアープランとしての商品化・販売に向けた検討（注）

（注）上記の検討に際して、環境省、請負者、専門家等による支援チームからの技術的な伴走支援を受けるものです。

（注）具体的な実施内容・計画等については、今後、支援チームからの伴走支援を受けながら決定することになります。

サイト内検索

Google 提供



ファイル種別

すべて

HTML

PDF

サーキュラーパーク九州

▶ 「サーキュラーパーク九州の実現に向けた連携協定」を締結しました

▶ 「サーキュラーパーク九州」構想（川内(火力)発電所跡地利活用事業）

▶ 「川内発電所の跡地活用に関する基本協定」の締結について

▶ 持続可能な社会の構築に向けた資源循環の拠点「サーキュラーパーク九州」の事業化が決定しました

▶ 持続可能な社会の構築に向けた資源循環の拠点「サーキュラーパーク九州株式会社」が設立されました

▶ アメリカ・シリコンバレーのグローバル投資会社「Sozo Ventures」の方々が本市を視察されました

▶ 循環経済（サーキュラーエコノミー）の先進国・オランダ王国大使館の方々が本市を視察されました



サーキュラーパーク九州(株)の立ち位置

本業は観光業ではないが...

- ✓ 資源循環の理解促進は自社にも有益
- ✓ 観光に携わることで関係人口を増やせる
- ✓ 九州電力グループとしても地域共創を重視



観光資源とは「モノ」と「コト」

「モノ」

名所・旧跡、景勝地・自然、物産・商品

整備に時間や費用を要する

「コト」

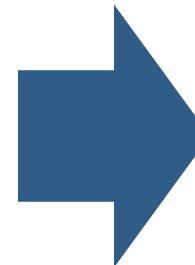
体験・活動、変化のプロセス、人の交流

スマールスタートが可能



【目指す姿】

- ・市内外からの観光客誘致
- ・周辺の観光コンテンツも含めた
回遊性
- ・エリア全体での地域づくり



【現状の課題認識】

- ・各観光コンテンツが**独立状態**
- ・地域全体としての**一体感が不足**

【取組みのステップ】

ステップ1

- ・パンフレットの作成

ステップ2

- ・各観光コンテンツ事業者の
巻き込み

ステップ3

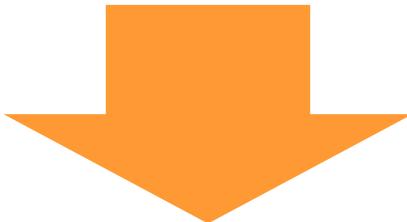
- ・モデルツアー試験実施

※2と3は並行して実施



★あまり知られていない魅力あるスポットを掲載したい！
でも、どんなスポットが最適なんだろう・・・？

★サーキュラーパーク九州自体の認知度が低く、地域との
つながりがない中でスタートしており、協力獲得に苦労



地元在住のフリーライターに協力を要請しよう！
パンフレットのイラストは一般的なものとは違うものに！

CPQ&

SATSUMASENDAI TOGO TAKI YOZEI HIWAKI ICHIHINO
IRIKI-FUMOTO IMUTA-IKE AKUNE ICHIKIKUSHIKINO

CIRCULAR PARK KYUSHU



旅のテーマ

TRAVEL 06 いちき串木野エリア

TRAVEL 05 阿久根エリア

TRAVEL 04 薩摩川内入来瀬・蘭牟田池エリア

TRAVEL 03 薩摩川内樋脇・市比野エリア

TRAVEL 02 薩摩川内高城・陽成エリア

TRAVEL 01 薩摩川内東郷エリア

RECOMMENDED PLACES オススメ周辺スポット

マルニ味噌ラーメン

ひがし農園

MODEL PLAN

旅のテーマ

かつての学校はいま、夢を実現する場所へ。小中学校の統合に伴い歴史を閉じた学校を、新たな夢を実現するための場所として生まれ変わらせ、活用している事例を見学し、体験します。

TEN TEN

ワンちゃんが利用可能なキヤ山公園の自然ペートな空間

旅のテーマ

不要から「用の美」をつくりだす今「和」の旅。畳、竹炭、水引飾りなど、日本人がつないできた暮らしのなかの美。その実用性と美しさをモダンにアップデートしている取り組みを知り、体験します。

高江米良校に西陣織を教えて、すぐそばの古家町を歩いていく。(奥がいの) 脱外套連鎖をして利用者とともに付近の田畠を農業をめぐらし、田んぼで育った野菜を販売。ランチでも提供している。

旅のテーマ

高城中学校に西陣織を教えて、すぐそばの古家町を歩いていく。(奥がいの) 脱外套連鎖をして利用者とともに付近の田畠を農業をめぐらし、田んぼで育った野菜を販売。ランチでも提供している。

高城の体育館内練習場にて撮影。オーナーは建築家として開設した学校のリノベーションに携わるなかで、子どもたちに新しい運動機会を提供したいとオープン。ドローン競技場としても活用されている。

毎年秋には「風を見に行こう! ウォーキングin柳山」と題して、風車を巡るウォーキング大会が開催されています。

柳山ウインドファーム

セシナモモの茶文化を知る

高城の体育館内練習場にて撮影。オーナーは建築家として開設した学校のリノベーションに携わるなかで、子どもたちに新しい運動機会を提供したいとオープン。ドローン競技場としても活用されている。

毎年秋には「風を見に行こう! ウォーキングin柳山」と題して、風車を巡るウォーキング大会が開催されています。

柳山ウインドファーム

セシナモモの茶文化を知る

RECOMMENDED PLACES オススメ周辺スポット

センノオト

櫻川天神

カフェ・ベパン

MODEL PLAN

9:30 JR川内駅 出発

10:00 Circular Park九州 視察

11:30 喫茶アカリトキ お弁当ランチ

13:00 薩摩川内一の宮 「新田神社」と可愛山様

14:00 九州電力が手掛ける初の複合施設「センノオト」で休憩

15:00 駅市薩摩川内でお買い物解散

観光に関するお問い合わせ | 川内観光案内所 TEL: 0996(23)9889 WEB: <https://satsumasendai.gr.jp/>

WEB: <https://satsumasendai.gr.jp/>

QRコード

ステップ2、3 『事業者の巻き込み』 『モデルツアー試験実施』

【モデルツアー参加実績：11月～】

- | | |
|--------------|------|
| ・市役所職員 | 112名 |
| ・九電グループ | 32名 |
| ・周辺観光事業者 | 2名 |
| ・バスツアー（通信高校） | 30名 |

※周辺観光スポット2か所回遊

【現状：問題点】

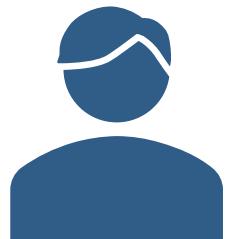
- ・一部事業者のみCPQ&に参画
- ・各観光コンテンツ同士が未連携
- ・「点」から「面」への転換が必要

【参加者の声】

「CPQ」は知っていたが
行ったことがなく、大変
勉強になった



他の観光コンテンツも
知ることができ興味・
関心が高まった



地域全体を対象とした
取組みは面白い



回遊性を持たせることの難しさ

事業者間連携の難しさ

個人事業主も多く、時間的余裕がないため取組みが難航

⇒**継続的な関係構築が必要**

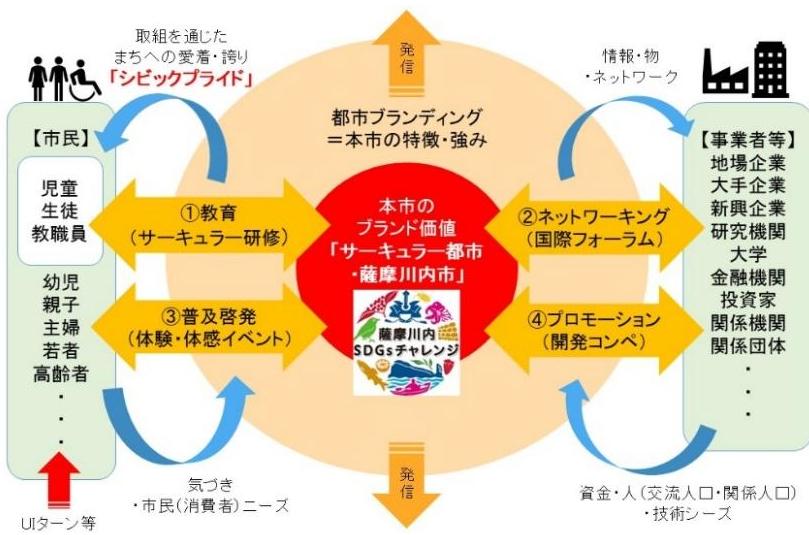
⇒**点から面への展開が必要**

⇒いかに**関係者を巻き込むか**、あるいは、

自らが関係者であることへのご理解をいただくか

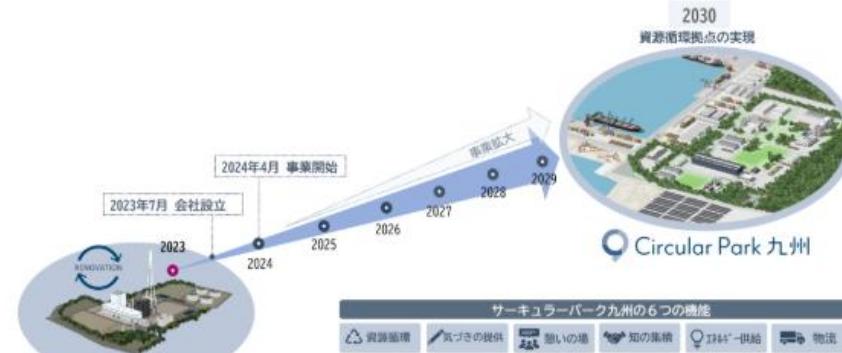
⇒**「コト」の観光資源化についても推進**

【薩摩川内市の取組み】



サーキュラー都市プランディングプロジェクト

【サーキュラーパーク九州株式会社の取組み】



- ①リソーシング事業、②ソリューション事業、
③エデュケーション事業、④資源循環拠点整備

相乗効果と地域への波及効果

【モニターツアー実施】

C E の
ネットワーク強化、
事業者の取組強化

ツアー商材化による
地域への経済的な
波及効果

- ①コンテンツや魅力の再整理 (掲載事業者等追加の検討)
②掲載事業者の巻き込み (ネットワーク構築)
③参加者自身がSDGsに関する取り組みの推進・実践に繋がる
ような仕掛けづくり
④ツアーの課題の洗い出し
⑤令和8年度以降にツアー商材 (一般、修学旅行向け等) として
商品化できるよう実証・検証



ご清聴ありがとうございました